

【資料に関する質問】

Q:「第1冊目3ページの資料にある**長期間食べない要因**」の**長期間**とは？

この長期間とは、医学的または口腔機能・感覚処理の年齢として

A1:食べることの臨界期を逃している状況であり

- ・生後10か月まで離乳食を開始できていない
- ・12か月までに粒のあるものを食べていない
- ・16か月までに取り分け食に移行できない

A2: 小児摂食障害の場合：年齢にそぐわない経口摂取障害（食べない）が**2週間**以上続き（発症から3か月未満－急性、3か月以上－慢性）少なくとも以下の一つ以上を伴うもの

- ①医学面での機能不全
- ②栄養面での機能不全
- ③摂食技能面での機能不全
- ④心理面での機能不全

【鉄欠乏性貧血】

Q: 鉄欠乏性貧血の早期発見ポイント

精神運動発達遅延～精神的発達、運動機能発達

例えば

首がすわる⇒寝返り・支えなしで座る⇒ハイハイ・つかまりだち⇒つたい歩き

あやすと笑う⇒いないいないばあ～を喜ぶ⇒人見知り⇒バイバイをする⇒ママ・パパなどが遅れる。

【家だと食べない】

自立に向かっている行動です。親が差し出す食べ物を拒否する時期があります。（自分で食べる、与えられた食べ物を拒否する行動の発達）

生後11か月頃から自分の手を使って食べる行動が徐々に増えると

⇒養育者（母親）が差し出す食べ物を**拒否する行動**が見られ始める

12か月～13か月頃からスプーンなどを使って食べる行動が開始された後

1歳半まで**拒否は増加**し続けたという観察結果があります。つまり

自分で食べるようになる時期に養育者（親）からの食べ物を拒否するようになる

⇒自立に向かっている（無理強いしない）

【参考：根ヶ山光一、外山紀子「子どもと食 食育を超える」：東京大学出版 2013】

【摂食行動におくれが見られる場合】

モグモグしているとき舌が出てきてしまう（離乳中期）

前歯でかじりとるがその後口腔内にため込んでしまう（1歳3か月）

3歳児で、離乳が出来ていない、チューチュー食うように食べる、飲み込む力が弱い

などの場合には、認知機能、口腔機能、体の発達が関係しているため、耳鼻科（唇を閉じて食べられない場合）、歯科（口腔内にため込む、つぶすなどができない場合の口腔機能の状態）、小児科（からだの発達）の受診をお勧めします。神奈川県立こども医療センター偏食外来 (<https://kcmc.kanagawa-pho.jp/about/bout>) の利用もお勧めです。

神奈川県小児保健協会の HP では偏食対応に関するアドバイスを掲載したパンフレットを自由にダウンロードできます。 <https://kanagawa-syounihokenkyoukai.jp/pamphlet/>

【その他】

・離乳完了期の食事からあげや魚のフライはまだ早いか

奥歯が生えそろっていないので、衣をうすくする、食材は包丁でたたき、またはそぎ切りにし、切れ目を入れるなどの工夫をした方がよいです。

・おやつはスティック状ではなく、楕円状の形態にした方がよいですか。

いろいろな形があるという学習も大切ですのでスティック状の日もあればお焼き、ミニクレープ、幼児用ビスケット、幼児用せんべいの日もあるというバラエティーに富んだ間食がおすすめです。

・巨大児の場合のリスクは？

巨大児は、小児期肥満になるリスクがやや高めといわれています。肥満は、高血圧、高脂血症、糖尿病などの生活習慣病のリスクを高めるため、注意が必要です。